



特集 **圧とずれからみた褥瘡の治療・ケア** ~徹底した圧とずれの排除を考える~

II. 日本人の褥瘡危険要因と OH スケール 2 臨床実践

堀田由浩

統合医療 希望クリニック 院長, なごやかクリニック 床ずれ往診医, 愛知県みよし市床ずれ対策事業 プロデューサー

Point

- ▶ 褥瘡は、早期発見ではなく、早期リスク発見が必須である
- ▶ 褥瘡予防対策には、日本人のエビデンスに基づいた OH スケールによるマットレス選択が有効である
- ▶ OH スケールなら地域の褥瘡予防対策に最適で効果的である

はじめに

一般的に要介護3、障害老人の日常生活自立度でB1以上からを、褥瘡リスクが発生する危険性があるとしており、この段階から褥瘡発生リスクアセスメントを活用し、早期褥瘡リスク発見に努めることが重要です。褥瘡発生リスクアセスメントには、ブレイデンスケール、OHスケール、在宅版K式スケール、厚労省の褥瘡対策に関する診療計画書、ノートンスケールなどがありますが、そのなかで日本人のエビデンスに基づき、簡単に判定できるのがOHスケールです。OHスケールは、1998～2000年の日本人の高齢者660名を対象に褥瘡発生に関連していると疑われた危険関連81項目（ブレイデンスケール6項目も含む）に対

して調査統計解析を行い導き出された、世界で初めて褥瘡発生確率が予測できる非常に優れたアセスメントツールです。しかも、わずか1分程度で誰でも簡単に判定でき、的確なベッドマットレスを選択できます。臨床現場では褥瘡発生リスクアセスメントとして第1選択にすべきです。病院や施設、一部の在宅でも、厚労省の褥瘡対策に関する診療計画書を作成する段階で、OHスケールによる褥瘡リスクの重みづけは今後の課題とされました。しかし、すでに15年が経過しており、患者にさらに適切な褥瘡対策を提供するために、ぜひともOHスケールを臨床現場で活用して成果を出していただければ幸いです。

簡便で日本人のエビデンスに基づいた OH スケール判定法 (表1)

OHスケールの元になった研究は、1998～2000年の日本人高齢者の褥瘡危険要因を検出する目的で、身体状況、診断名、栄養状態、ブレイデンスケールの6項目も含めた81項目のなかで、項目ごとに褥瘡発生との関係性を比較したものです。解析の過程で体圧分散寝具の使用の有無が、とびぬけて高く褥瘡の原因と関連しており、患者の褥瘡リスクに対応するベッドマットレスを選択するために、どの身体項目が褥瘡発生に関連するかを解析してOHスケールが導き出されました。

表1 OHスケール

患者氏名：				点数
①自力体位変換	できる 0点	どちらでもない 1.5点	できない 3点	点
②病的骨突出 (判定器のOKメジャー使用時)	なし (凹み) 0点	どちらでもない 軽度・中等度 (ベンチ) 1.5点	高度 (シーソー) 3点	点
③浮腫(むくみ)	なし 0点	薬剤により 浮腫がない 1.5点	あり 3点	点
④関節拘縮	なし 0点	あり 1点		点
①+②+③+④の合計でリスクランクを判定する 0点：リスクなし、1～3点：軽度、4～6点：中等度、7～10点：高度 このランクに介護度を勘案してマット選択を行う(表4)				合計 点

OH スケールの採点方法

OHスケールは、①自立体位変換能力、②病的骨突出、③浮腫は3点満点の3段階で、④関節拘縮は1点満点で、あるかないかの2段階で判定します(表2)。この4つの危険要因の合計が高いほど、褥瘡発生リスクも高いと証明されています。後は、合計点数を3つのランクに分けます。つまり、0点ならリスクなし、1～3点は軽度リスク、4～6点なら中等度リスク、7～10点は高度リスクになるわけです(表3)。このランクに介護度を勘案してベッドマットレスを選択します(表4)。

表2 OHスケール採点方法

①自立体位変換能力	点/3点
②病的骨突出	点/3点
③浮腫	点/3点
④関節拘縮	点/1点
合計	点/10点

表3 OHスケールリスクランク

OH合計点数	危険度ランク
0点	なし
1～3点	軽度
4～6点	中等度
7～10点	高度

①自力体位変換能力

患者(利用者)は自身の力で、意識的あるいは無意識的かを問わずに、体に加わった圧力とずれ力に対して有効に体位を変えて軟部組織の血流を改